

論壇時評

伊 東 光 晴

毛沢東が死んで二カ月、中国の政治は大きく動揺している。江青未亡人、王洪文党副主席、張春橋副首相、姚文元政治局員の逮捕が報じられているからである。この

東の名は永久に歴史に名をとどめよ。すべての人が、このことを高く評価する点ばかりがない。その上であらわれた意見をよま

ンゴラやチリの問題などで失敗する(座談会「中国はどこへ」朝日ジャーナル、九月二十四日)。

と悲慘(「文芸春秋」)にふれるところがある。毛沢東が長征をともにした同志貴士員と離婚し、江青と結婚するとき、党中央は、党の秘密は彼女に洩らさないこと、という注文をつけた。そしてこの結婚に強く反対した一人が劉少奇

江青他の事件が報じられる以前に書かれた中国問題の専門家、中島嶺雄と嶋倉民生の予見を見よ。中島はいつ、「文革派がひたすら毛沢東継承権を主張し続けるとしたら、中国内政の不協和音は一挙に増幅するであろう」(「毛沢東体制は解体する」朝日ジャーナル、九月二十四日)と。嶋倉も書く、「文革派の急進路線が一時的に台頭しそこにみえるが、穩健、現実派が、安定勢力である軍幹部の支持をえて西派の均衡維持の路線を確保してゆけばそこに思われる」(「毛沢東の遺したもの」経済評論、十月号)と。そのいずれも周恩来の建設の路線に取敢して「八」を予見している。

その失敗の内容については北沢洋子「第三世界における榮光と挫折」(朝日ジャーナル、九月二十四日)にくわしい。ラアン・アメリカの反中国感情—それはチリのアジェンデ政権を武力でたお

「周恩来、國際情勢に関する秘密演説(中央公論)」の解説で林彪問題は、林彪が米中接近に強く反対しているが、毛沢東が江青がおかしたかつての誤りと江青の過激を党中央にゆだねたといふとき、その誤りと何なのであるうか。米中接近反対と同一路線をとった可能性は高い。とすると、今回のゆれもそれは、外交面でも現在の路線の継承かもしれないのである。

人間毛にふれた貞塚茂樹「毛沢東の変身」(同)もマーク・ゲインも毛のふれの大きさを語っている。詩人であり、理想と理想に生き、しかばねをむち打つ激しさ—それは周恩来のような、与えられた条件の下で可能性の技術としての政治を考える人を同時に必要としたのではないだろうか。

文化



五味 秀夫・画

中国政変を予見する

中島嶺雄「毛沢東体制は解体する」
嶋倉民生「毛沢東の遺したもの」

文革派より現実派の路線へ

中国外交のゆがみ

毛沢東の死にともなって、第二次大戦を闘った巨人たちはすべてこの世を去った。列強の半植民地化した中国の人民をふるいたたせ、農村を根拠地にし、都市を包圍し、中国を独立させ、飢えかつ住むに家のなかつた八億の民に食と住を与えた革命の指導者として、毛沢

中国を理解すること多い國際政論学者、闊寛治にしてい。外交政策に関しては、はっきり言って中国は落第だ。「外国の事情とかその解釈に関してはおそろしく偏頗(へんぱ)である。だからア

でも問題をほらんだ。中国外交の二つしたゆがみ—その多くは、ヒエートの対決と不当補充のためである私は考えるが、今回の江青問題については、マーク・ゲインは「毛沢東の偉大

天皇在位五十年—その祝典が行われようとしている。これに関連して一誌に値するものは、武田清子「イギリス人にとつての天皇制」(世界)である。問題の視角は、君主制を持つイギリスの政治家が、日本敗戦の時、天皇の処遇

天皇在位五十年に問題を転じよう。